

農業集落の変容と将来予測

—農業センサス等に基づく統計分析から—



農林水産省 農林水産政策研究所
総括上席研究官(農業・農村領域) 橋 詰 登

1. 農村構造の変化と農業集落の変容

- 近年，農業構造と共に農村構造も大きく変化しており，2015年の国勢調査，農業センサスからは以下のような動きが観察される
 - ① 農村部での人口減少・高齢化は，都市部に先駆けて古くから進行，趨勢で推移すれば山間地域がより一層深刻な状況に
 - ② 人口減少によって，農村部（特に，山間地域）での農業集落が縮小し続けている
 - ③ 小規模集落ほど集落の機能や活動が低下する傾向が確認できる



以下では，関連する分析結果を紹介

(1) 中山間地域での人口減少と高齢化が加速

➤ 趨勢での予測によれば、山間農業地域での人口減少と高齢化はより一層深刻化し、30年後には人口が半減、過半が高齢者に

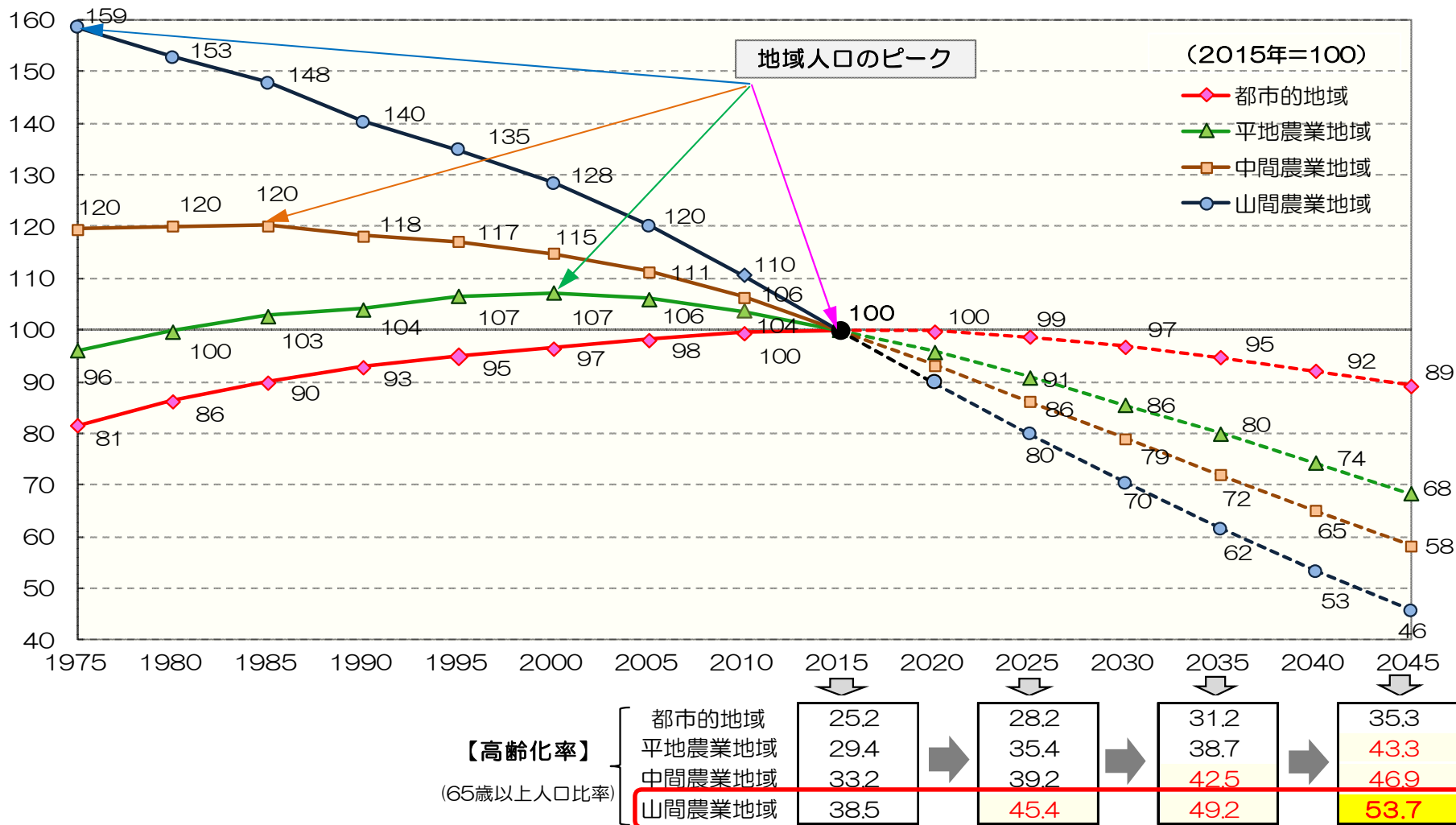


図1 農業地域類型別の人口推移と将来予測

注1) 国勢調査の組替集計による。なお、2020年以降（点線部分）はコーホート分析による推計値である。
 2) 農業地域類型は2000年時点の市町村を基準とし、2007年4月改定のコードを用いて集計した。

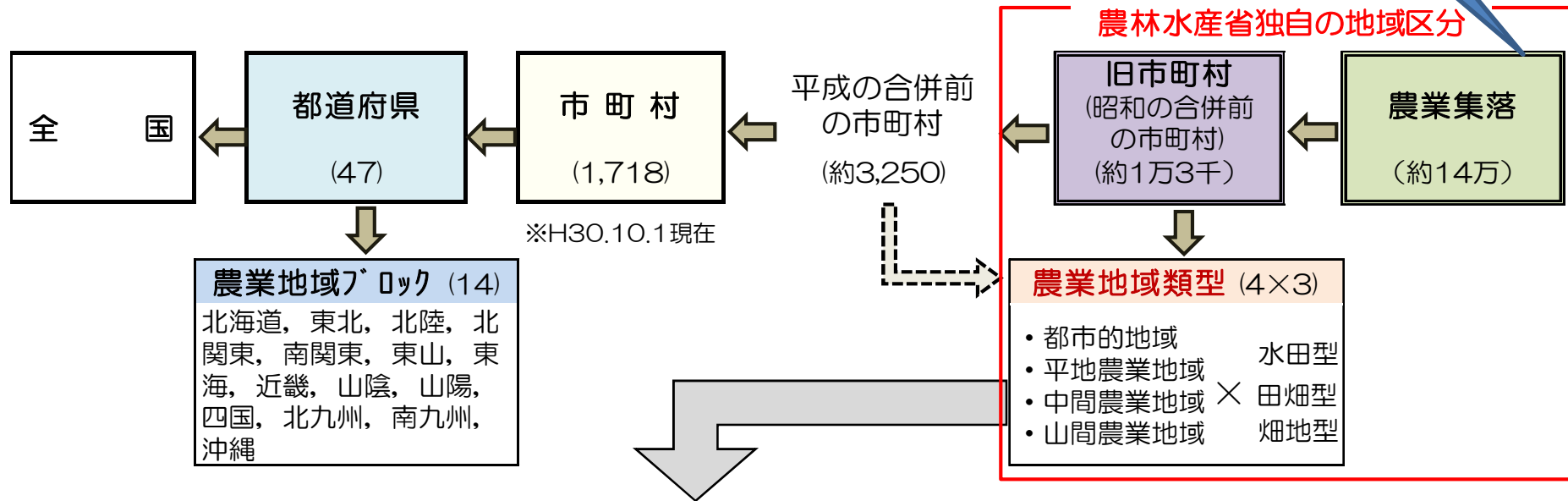
【参考1】農林統計で用いる地域区分

農林業センサスの集計・表章範囲

- 農林水産省独自の小地域区分を設定



地域社会の基礎単位である農業集落（約14万）を対象に、農林業センサスで農村実態を把握



「農業地域類型区分」の基準 (H29年改定)

都市的地域 (3,549旧市区町村)	○ 可住地に占めるDID面積が5%以上で人口密度500人以上又は、DID人口2万人以上 ○ 可住地に占める宅地等率が60%以上で、人口密度500人以上（林野率80%以上のものは除く）
平地農業地域 (3,129旧市区町村)	○ 耕地率20%以上かつ林野率50%未満（傾斜20分の1以上の田と8度以上の畑の合計面積が90%以上のものを除く） ○ 耕地率20%以上かつ林野率50%以上で傾斜20分の1以上の田と傾斜8度以上の畑の合計面積の割合が10%未満
中間農業地域 (4,065旧市区町村)	○ 耕地率が20%未満で、「都市的地域」及び「山間農業地域」以外 ○ 耕地率が20%以上で、「都市的地域」及び「平地農業地域」以外
山間農業地域 (2,313旧市区町村)	○ 林野率80%以上かつ耕地率10%未満

注 (1) 決定順序は、都市的地域→山間農業地域→平地農業地域・中間農業地域。

(2) 旧市区町村とは、昭和25年2月1日時点（昭和の市町村合併前）の市区町村である。

【参考2】 農業センサスでの農業集落の定義と調査対象



- **農業集落**とは、市町村の区域の一部において農業上形成されている地域社会，もともと自然発生的な地域社会であって，家と家とが地縁的，血縁的に結びつき，各種の集団や社会関係を形成してきた社会生活の基礎的な単位
 - 具体的には，農道・用水施設の維持・管理，共用林野，農業用の各種建物や農機具等の利用，労働力（ゆい，手伝い）や農産物の共同出荷等の農業経営面ばかりでなく，冠婚葬祭その他生活面にまで密接に結びついた生産及び生活の共同体であり，さらに自治及び行政の単位として機能してきたもの
- 農林業センサス農山村地域調査の中で，集落の立地や活動状況（寄り合いの開催状況，共同活動の実施状況等）等を5年ごとに調査
 - 2005年農業センサスでの大幅見直しによって，集落調査の対象が変更
 - 全域が市街化区域内の集落は調査対象外に，一方，農家か農地があれば集落機能がなくても調査対象に
 - 集落単位に農業経営体調査の属人データも集計，これら時系データを掲載した「**農業集落カード**」が5年ごとに作成・公表されている

(2) 人口減少によって縮小し続ける農業集落

- 農業集落の縮小（小規模化）が中山間地域で進行，山間集落の平均世帯数は5年前の26戸から24戸へと2戸減，人口は72人から62人へと10人減（高齢化率も40%から45%へ上昇）
 - 集落内における総世帯数の減少 = 「空き家」の増加
- 山間集落の平均農家数は8戸（うち，販売農家は僅か4戸）
 - 農家の頭数減少 = 農道や用排水路の管理が集落単独では困難に

表2 中央値（Median）でみる各地域の平均的な農業集落像の変化

	1集落当たりの世帯数 (戸)		総農家数 (戸)		販売農家数 (戸)		1集落当たりの総人口 (人)		高齢化率 (%)		1集落当たりの耕地面積 [属地面積] (ha)		田面積 (ha)	
	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年
全 国 (算術平均)	51 (198)	50 (201)	14 (18)	11 (15)	9 (12)	6 (9)	188 (863)	174 (856)	30.3 (32.1)	34.8 (36.6)	18 (35)	17 (33)	12 (21)	11 (20)
都市的地域	210	220	14	12	8	6	938	934	23.6	27.9	14	13	10	9
平地農業地域	56	57	17	15	13	10	204	190	28.4	32.7	34	34	23	23
中間農業地域	39	38	13	11	9	6	126	113	33.6	38.2	16	15	11	10
山間農業地域	26	24	10	8	6	4	72	62	39.9	44.6	10	9	7	7
北 海 道	17	16	5	5	5	4	61	54	33.3	38.2	106	106	50	49
都 府 県	53	52	14	12	9	7	196	182	30.2	34.7	17	16	12	11

資料：農林業センサス農山村地域調査（2010年，2015年），地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。

注 1) 全国の下段に（ ）内で示した数値は，算術平均値である。

2) 集落の人口及び高齢化率は，国勢調査の人口データを農業集落別に推計したものである。

- 中間及び山間農業地域では、「5年前より総戸数が減少」した集落がそれぞれ50%、55%を占める
 → 中山間集落の半数で、この5年間に新たな空き家が発生
- 平地農業地域でも、38%の集落で総戸数が減少（総戸数が増加したのは34%の集落、戸数減少集落より少ない）
- 都市的地域のみ、約半数の集落で「5年前より総戸数が増加」（総戸数が減少した集落は29%）

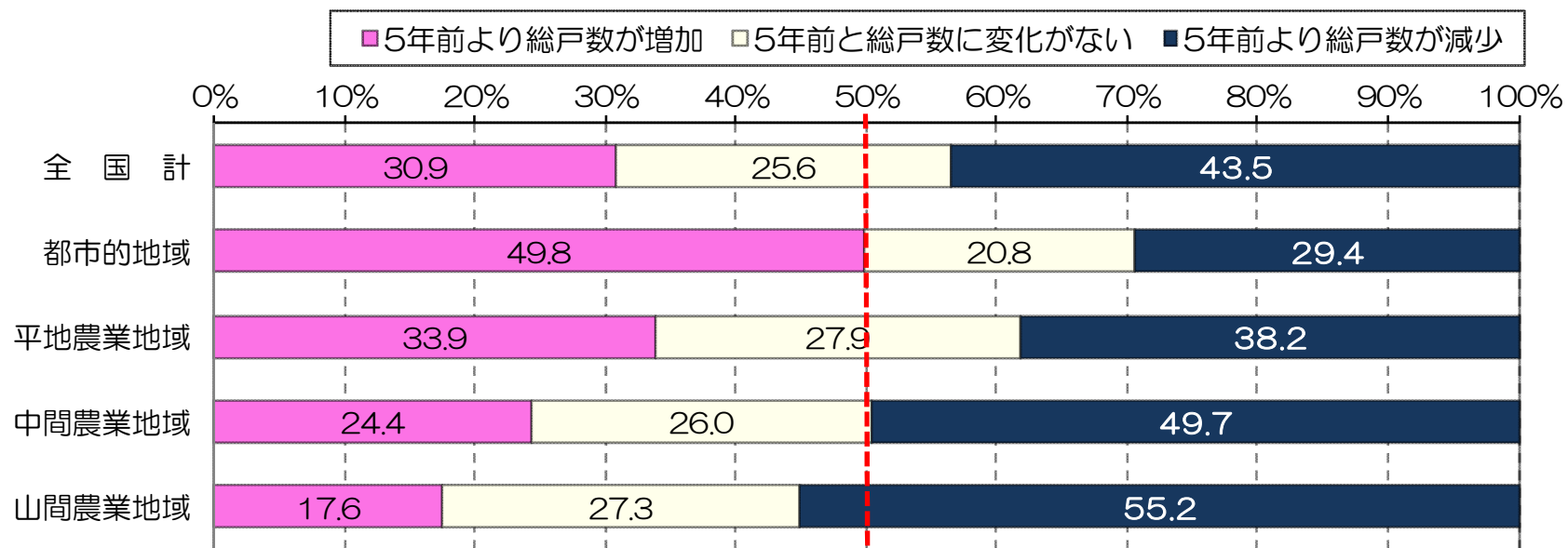


図2 農業地域類型別に見た総戸数増減別農業集落数割合（全国：2010-15年）

資料：農林業センサス農山村地域調査（2010年，2015年）

注．2010-15年間に分割・合併等を行っていない129,997継続集落のみを対象．

- 5年前に比べ、全地域で人口減少率が上昇した集落の割合が高まっている
- 山間農業地域では、5年間の人口減少率10%以上の集落が、前回（2005-10年）の54%から今回（2010-15年）は62%に上昇、人口が維持できた集落は1割に満たない

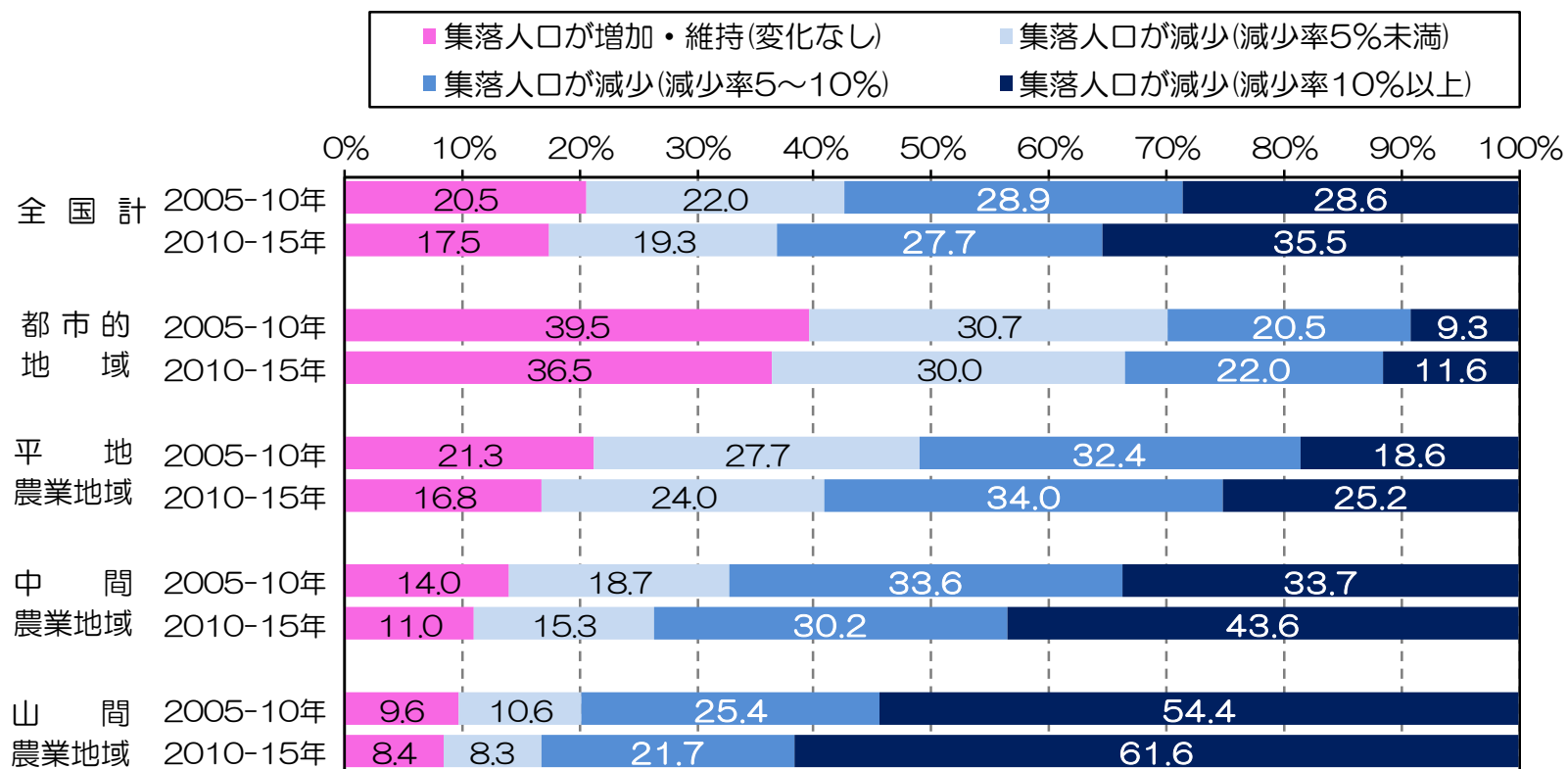


図3 5年間の人口増減別農業集落数割合の推移（全国）

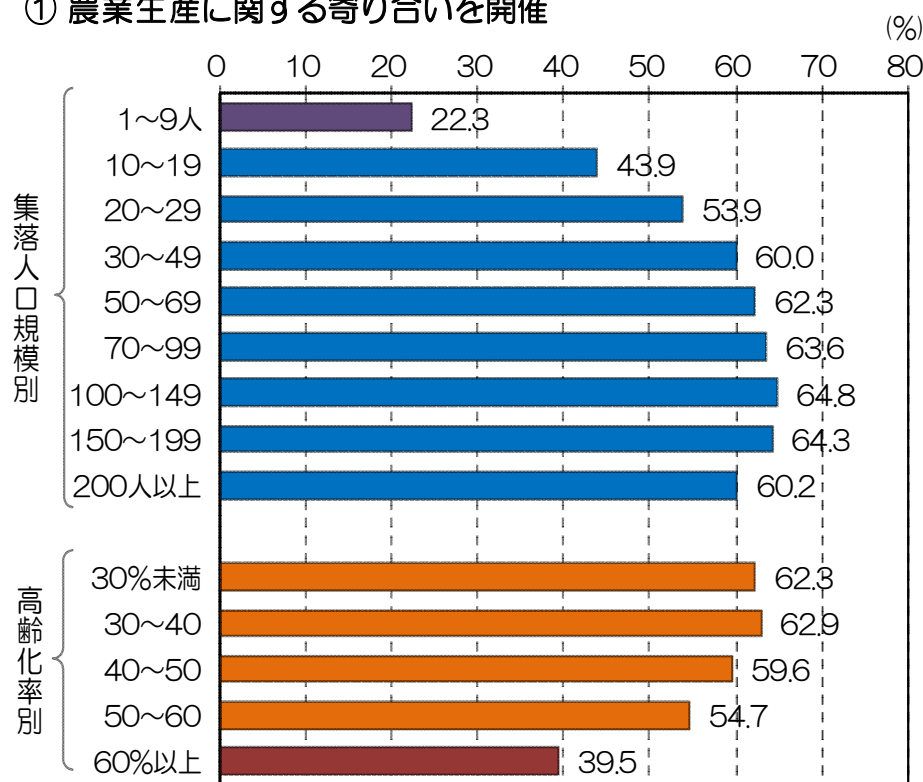
資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）
 注：国勢調査の人口データを農業集落別に集計した推計人口に基づく。

(3) 集落の縮小が進み続けると集落機能は大きく低下



- 2015年の結果を見ると、人口規模の小さな集落、高齢化率の高い集落ほど集落活動が停滞する傾向が確認できる
- 特に、「人口が9人以下」「高齢化率が60%以上」になると集落での活動・機能が著しく低下する（人口9人以下≒世帯数4戸以下）

① 農業生産に関する寄り合いを開催



② 農業用排水路を集落で保全・管理

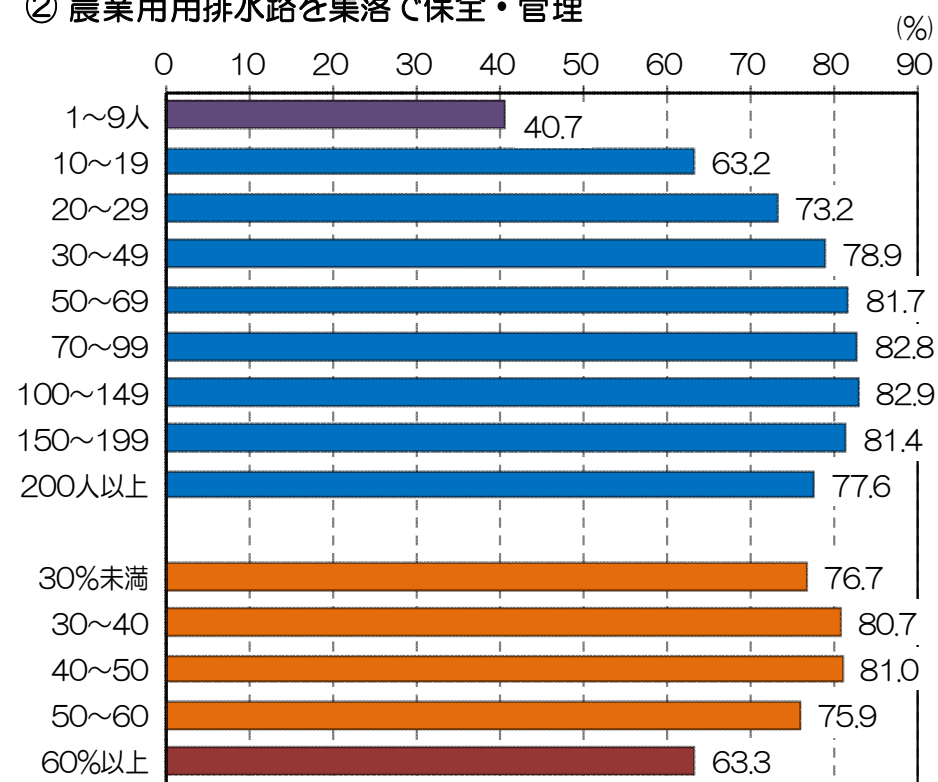


図4 人口規模・高齢化率別にみた集落の活動状況（2015年）

資料：農林業センサス農山村地域調査(2015年)，地域の農業を見て・知って・活かすDB(2015年)。

注．集落人口及び高齢化率は，国勢調査の人口データを農業集落別に推計した値に基づく。

- 総世帯数が「4戸以下」の集落のみ，共同保全割合が大きく低下（46%→36%），他はすべて5～7ポイント上昇
- 総世帯数規模に関係なく（「4戸以下」を除く），3～4割の集落が他の集落と共同で保全に取り組む
 → **日本型直接支払（中山間直払，多面的機能支払）の効果？**

(総世帯数規模)

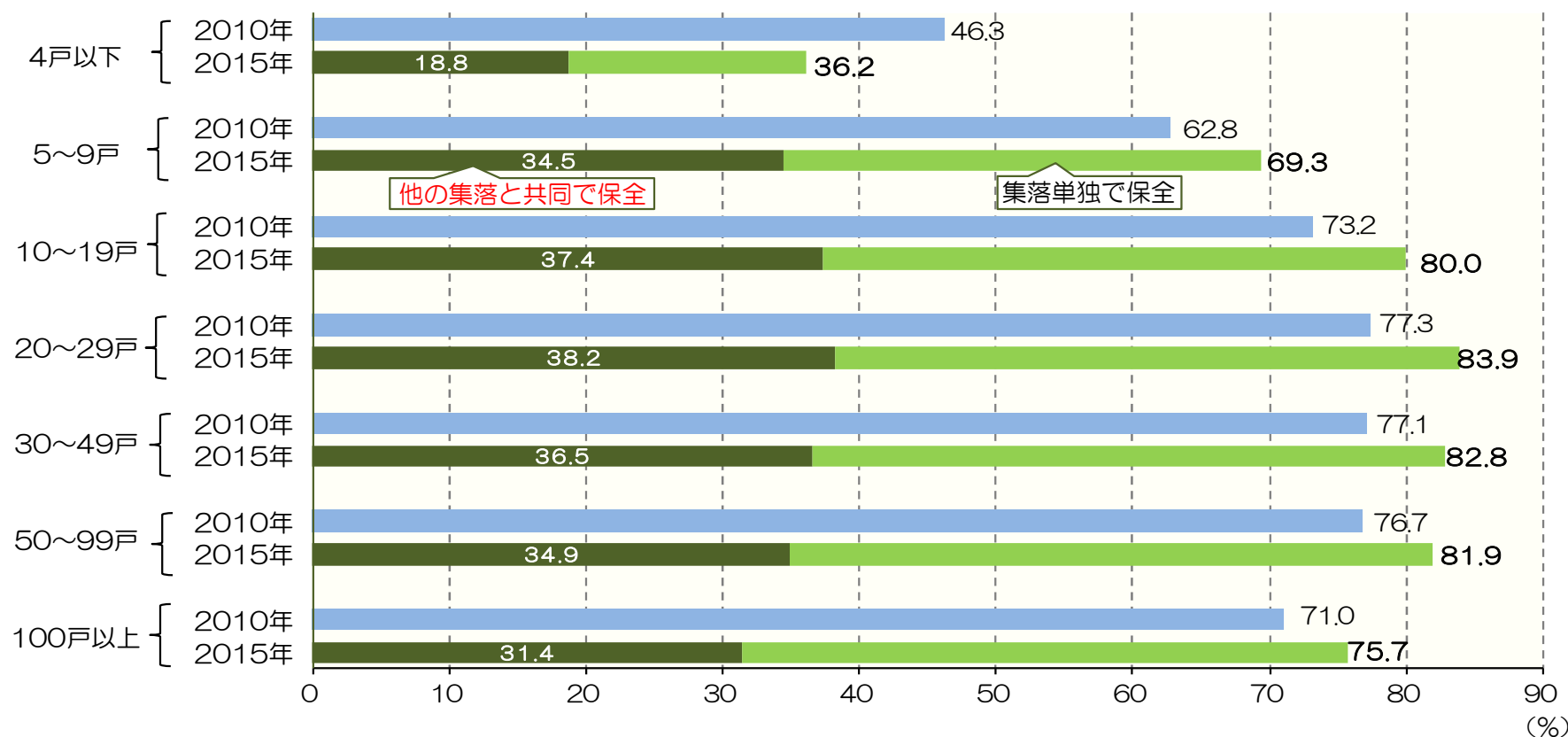


図6 総世帯数規模別に見た農業用排水路の共同保全割合（全国：2010→15年）

資料：農業センサス農村地域調査（2010年，2015年）。

注．継続集落の抽出集計による。

2. 農業集落の将来予測 –西暦2045年の農村構造–



- 「農村地域人口と農業集落の将来予測– 西暦2045年における農村構造–」を8月30日にプレスリリース
- 分析に用いたデータは、「**地域農業を見て・知って・活かすDB** ~農林業センサスを中心とした総合データベース~」（農林水産省のホームページからダウンロード可能）から、農業集落別の2045年推計人口を活用
 - このデータは、2010年と2015年の国勢調査データを農業集落別に組替えた後、コーホート分析によって各集落の男女別5歳刻み人口（2020年から2045年まで5年ごと）を推計したもの
 - このDBには、推計人口以外にも農業集落単位（全国約14万集落）に以下のデータを集録
 - （農林業センサス，国勢調査，経済センサス，集落営農実態調査の統計調査データ，農業基盤情報，多面的機能支払交付金，中山間地域等直接支払交付金等の業務統計データ，国土数値情報

(1) 農業集落の縮小と世帯員の高齢化がさらに進行

- 農業集落の縮小が全地域で進行し、小規模集落が増加
- 30年後（西暦2045年）には、山間農業地域の集落の4分の1は人口一桁（9人以下），半数近く（46%）が高齢化率60%以上に

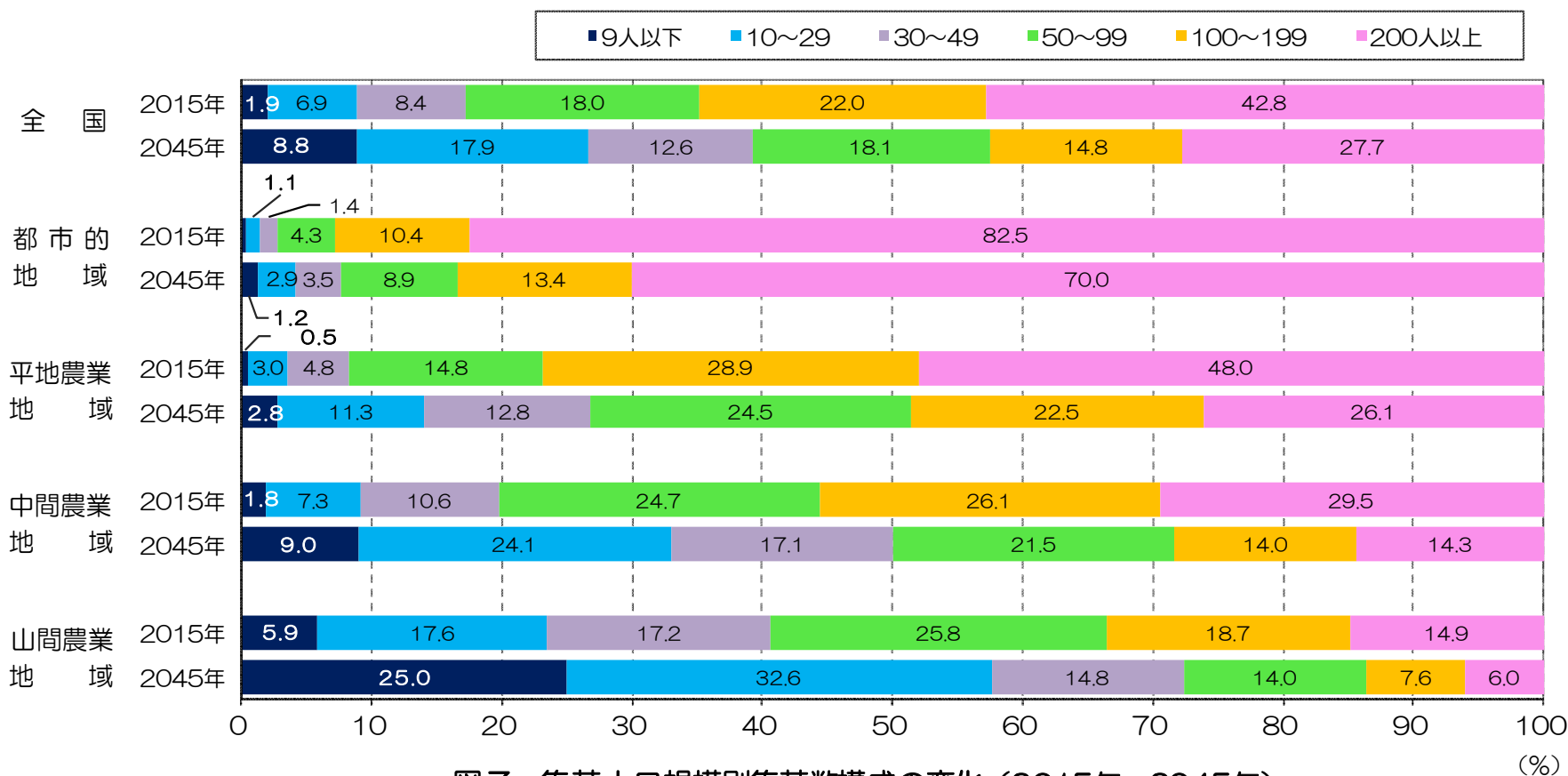


図7 集落人口規模別集落数構成の変化（2015年→2045年）

資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。

注. 2045年の割合は、集落ごとに行ったコーホート分析による推計人口に基づく。なお、「9人以下」には、無人化した集落（集落人口0の集落）を含む。

- 集落世帯員の高齢化も一段と加速し、全国計で世帯員の過半が高齢者（高齢化率50%以上）になる集落が13%から49%に急増
- 山間農業地域では、高齢化率60%以上の集落が2045年には46%を占める（現在は15%）

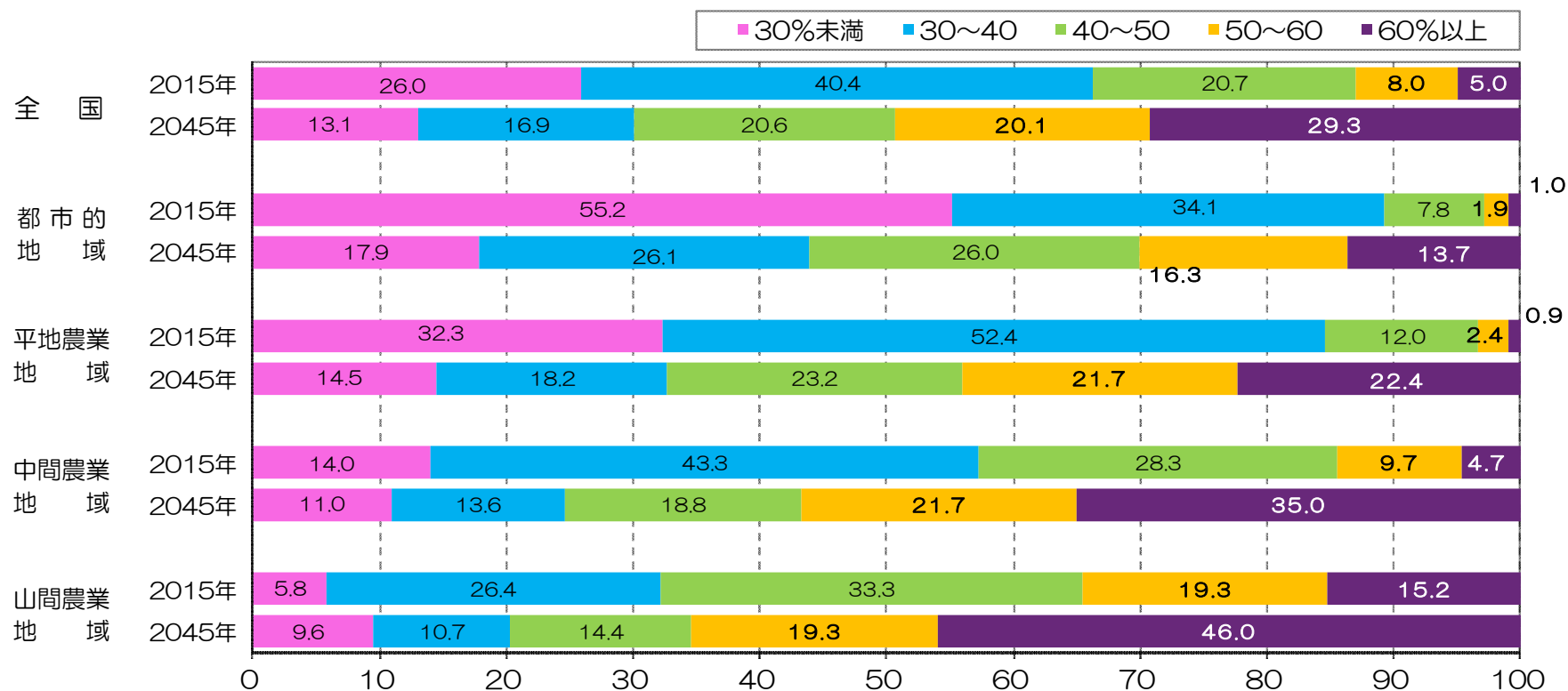


図8 集落世帯員の高齢化率別集落数構成の変化（2015年→2045年）

(%)

資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。

注．2050年の割合は、集落ごとに行ったコーホート分析によって推計した年齢別の集落人口に基づく。

なお、2015年、2045年ともに、有人集落を母数とした集落割合である。

(2) 「存続危惧集落」等が急増

- **存続危惧集落**（人口9人以下&高齢化率50%以上）が、2015年の2,353集落から30年後には9,667千集落へと4倍に増加
- **超高齢化集落**（集落人口の3分の2以上が65歳以上）が4,059から27,119へ、**子どものいない集落**が9,168から30,192に急増

→ これら集落の多くは、中山間地域に所在

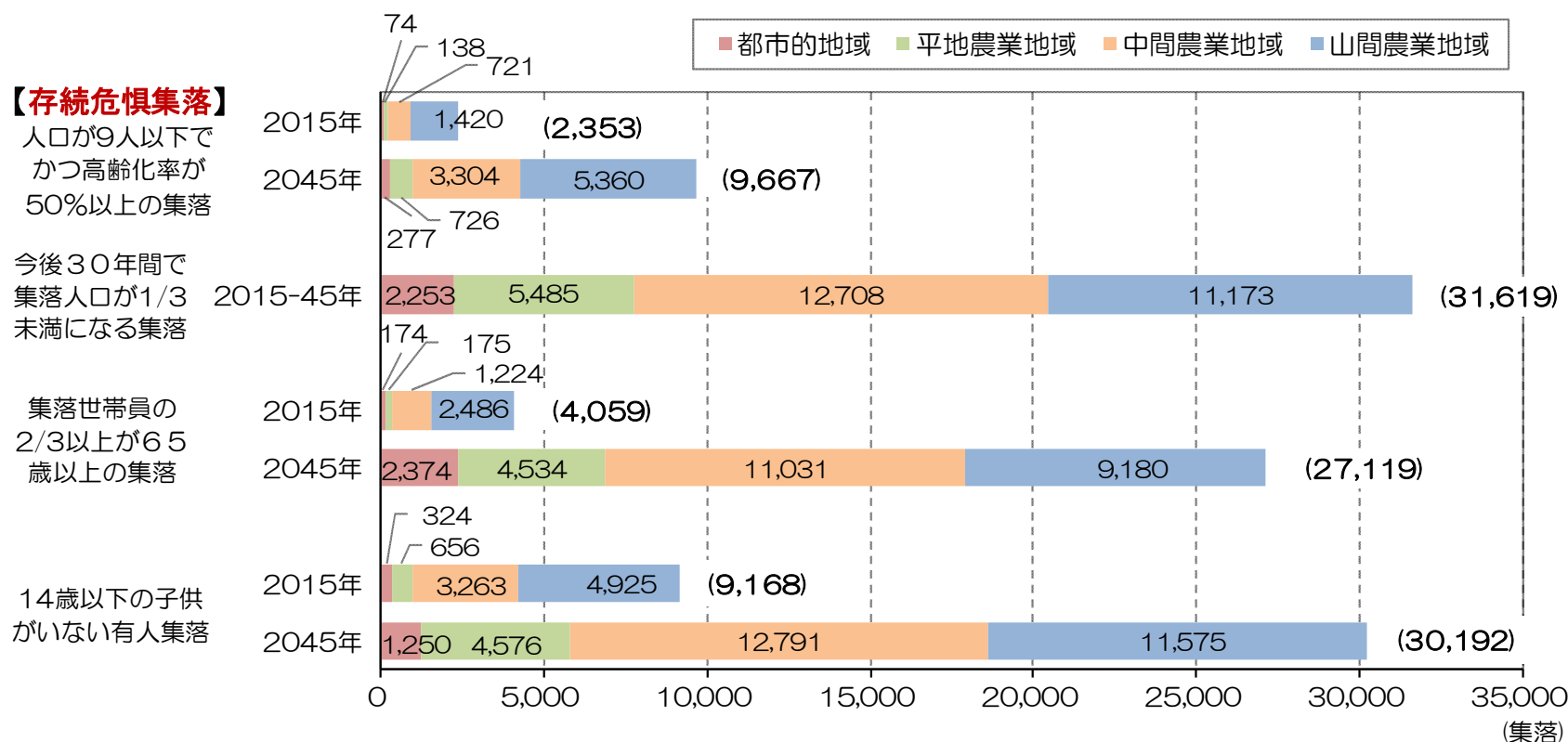


図9 人口減少と少子・高齢化の進行による集落の変容（推計結果）

資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。
注：集落ごとに行ったコーホート分析によって推計した年齢別の集落人口に基づく。

➤ 2045年での**存続危惧集落**が有する**耕地面積**(2015年時点)は、
全国計で約20万ha (うち, 中山間地域に約13万ha)

➤ **山間農業地域**では, **耕地面積の1割強が存続危惧集落** (2045年)
に存在

表6 「存続危惧集落」が有する資源量

		集落数 (集落)	総戸数 (戸)	総農家数		総土地 面積 (1,000ha)	耕地面積		1集落当たり平均				
				販売農家 (戸)	自給的 農家 (戸)		(属地面積) (ha)	田 (ha)	総戸数 (戸)	総農家数 (戸)	総土地 面積 (ha)	耕地面積 (ha)	
全国計	2015年	2,353 (1.7)	9,034 (0.0)	2,397 (0.1)	1,275 (0.1)	1,122 (0.1)	1,604 (4.4)	31,897 (0.7)	7,631 (0.3)	3.8	1.0	682	3.2
	2045年	9,667 (7.0)	105,891 (0.4)	36,582 (1.8)	21,165 (1.6)	15,417 (2.0)	5,048 (14.0)	198,918 (4.5)	61,299 (2.5)	11.0	3.8	522	6.3
都市的 地域	2015年	74 (0.2)	556 (0.0)	92 (0.0)	54 (0.0)	38 (0.0)	23 (0.6)	1,503 (0.2)	922 (0.2)	7.5	1.2	315	12.5
	2045年	277 (0.9)	3,367 (0.0)	761 (0.2)	486 (0.2)	275 (0.1)	90 (2.5)	7,234 (1.1)	4,083 (1.0)	12.2	2.7	324	14.7
平地農 業地域	2015年	138 (0.4)	568 (0.0)	151 (0.0)	131 (0.0)	20 (0.0)	80 (1.5)	7,582 (0.4)	1,951 (0.2)	4.1	1.1	578	14.1
	2045年	726 (2.1)	6,941 (0.2)	2,681 (0.4)	2,258 (0.5)	423 (0.2)	335 (6.3)	60,995 (3.1)	15,781 (1.5)	9.6	3.7	461	21.7
中間農 業地域	2015年	721 (1.5)	3,040 (0.1)	706 (0.1)	408 (0.1)	298 (0.1)	356 (3.0)	10,532 (0.8)	2,181 (0.3)	4.2	1.0	494	3.0
	2045年	3,304 (7.0)	38,117 (1.0)	12,733 (1.9)	7,768 (1.9)	4,965 (1.9)	1,163 (9.8)	68,947 (5.2)	19,995 (2.9)	11.5	3.9	352	6.1
山間農 業地域	2015年	1,420 (5.3)	4,870 (0.4)	1,448 (0.5)	682 (0.4)	766 (0.6)	1,145 (7.5)	12,280 (2.5)	2,577 (1.0)	3.4	1.0	807	1.8
	2045年	5,360 (20.1)	57,466 (4.2)	20,407 (7.2)	10,653 (6.9)	9,754 (7.6)	3,461 (22.6)	61,742 (12.6)	21,440 (8.6)	10.7	3.8	646	4.0

資料：農林業センサス農山村地域調査(2015年), 地域の農業を見て・知って・活かすDB (2015年)。

注. 2045年の戸数・面積は, 集落ごとに行ったコーホート分析によって推計された「存続危惧集落」(人口9人以下でかつ高齢化率50%以上)が有する2015年時点の資源量である。なお, ()内の数値は各資源のシェアを示す



➤ **存続危惧集落**の占める割合が、30年後（2045年）に10%を超えると見込まれる都道府県は、北海道、石川と和歌山、島根、山口、徳島、愛媛、高知、大分の西日本の各県

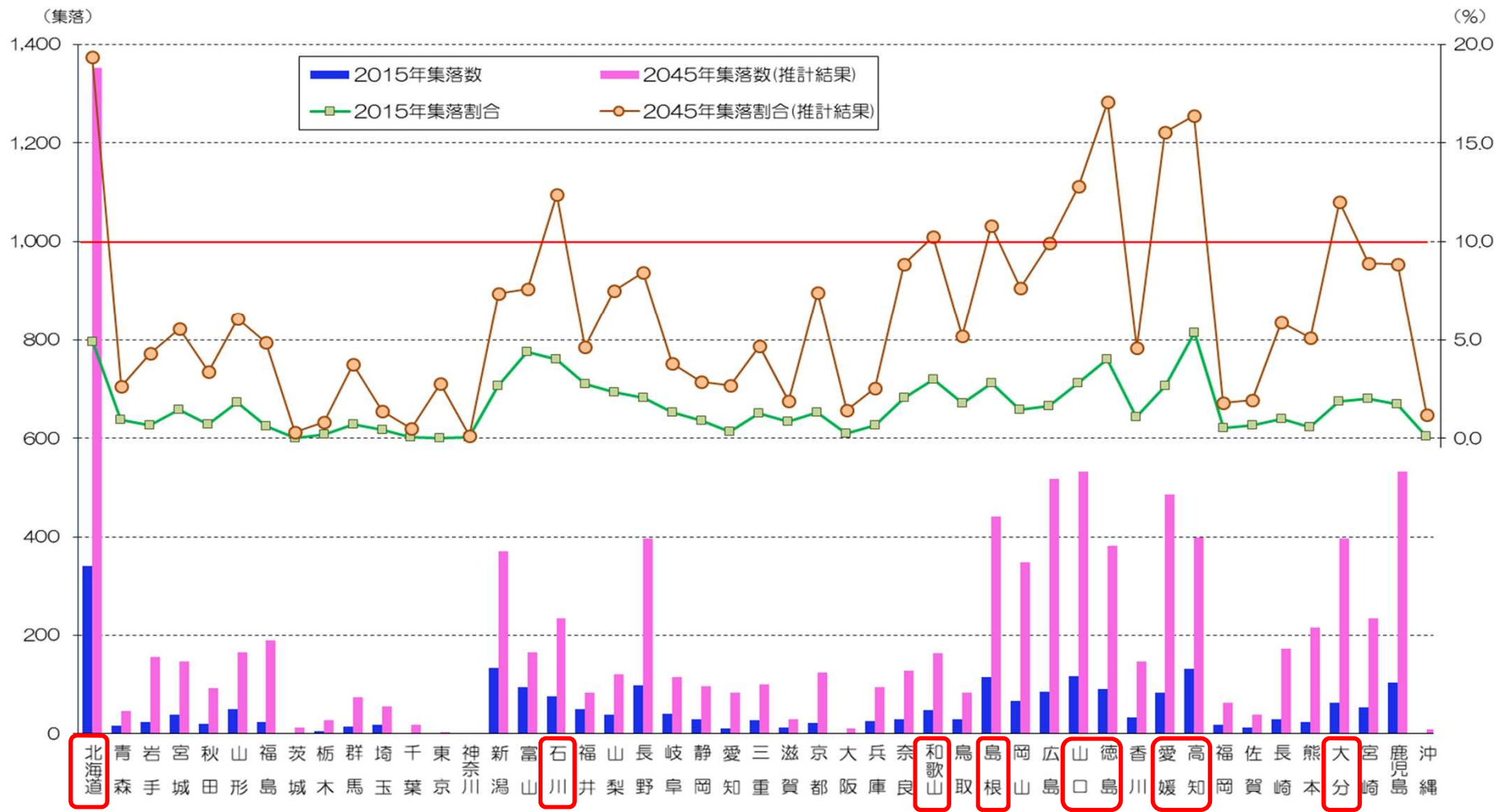


図10 都道府県別の「存続危惧集落（人口9人以下&高齢化率50%以上）」数及び同割合

資料：地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）。
 注. 2050年の割合は、集落ごとに行ったコーホート分析によって推計した年齢別の集落人口に基づく。なお、「存続危惧集落」には人口がゼロの集落を含む。



➤ 超高齢化集落（集落世帯員の3分の2以上が65歳以上）や子ども がいない集落の割合も、総じて西日本の各県において高くなる

表7 都道府県別の「存続危惧集落」数等の予測結果

	農業センサス農業集落調査の対象集落数		存続危惧集落 (人口9人以下で高齢化率50%以上の集落)		今後30年間で人口が1/3未満になる集落		集落世帯員の2/3以上が高齢者の集落		14歳以下の子供がいない有人集落		農業センサス農業集落調査の対象集落数		存続危惧集落 (人口9人以下で高齢化率50%以上の集落)		今後30年間で人口が1/3未満になる集落		集落世帯員の2/3以上が高齢者の集落		14歳以下の子供がいない有人集落					
	2015年	2015年	2045年	2015年	2045年	2015年	2045年	2015年	2045年	2015年	2045年	2015年	2015年	2045年	2015年	2045年	2015年	2045年	2015年	2045年				
全国計	138,256 (100.0)	2,353 (1.7)	9,667 (7.0)	31,619 (22.9)	4,059 (2.9)	27,119 (19.6)	9,168 (6.6)	30,192 (21.8)	2,220 (100.0)	95 (4.3)	165 (7.4)	340 (15.3)	84 (3.8)	357 (16.1)	197 (8.9)	405 (18.2)	4,093 (100.0)	115 (2.8)	442 (10.8)	779 (19.0)	148 (3.6)	862 (21.1)	343 (8.4)	1,200 (29.3)
北海道	7,081 (100.0)	342 (4.8)	1,353 (19.1)	2,256 (31.9)	316 (4.5)	2,071 (29.2)	1,089 (15.4)	2,735 (38.6)	1,923 (100.0)	76 (4.0)	235 (12.2)	515 (26.8)	146 (7.6)	470 (24.4)	232 (12.1)	531 (27.6)	4,548 (100.0)	67 (1.5)	349 (7.7)	1,094 (24.1)	182 (4.0)	799 (17.6)	352 (7.7)	1,051 (23.1)
青森	1,785 (100.0)	17 (1.0)	47 (2.6)	419 (23.5)	13 (0.7)	390 (21.8)	51 (2.9)	301 (16.9)	1,819 (100.0)	50 (2.7)	84 (4.6)	231 (12.7)	55 (3.0)	241 (13.2)	112 (6.2)	267 (14.7)	5,229 (100.0)	86 (1.6)	518 (9.9)	1,306 (25.0)	196 (3.7)	1,198 (22.9)	443 (8.5)	1,499 (28.7)
岩手	3,615 (100.0)	24 (0.7)	155 (4.3)	895 (24.8)	18 (0.5)	683 (18.9)	84 (2.3)	878 (24.3)	1,614 (100.0)	38 (2.4)	121 (7.5)	362 (22.4)	65 (4.0)	425 (26.3)	148 (9.2)	398 (24.7)	4,168 (100.0)	117 (2.8)	532 (12.8)	1,044 (25.0)	298 (7.1)	1,251 (30.0)	582 (14.0)	1,342 (32.2)
宮城	2,641 (100.0)	39 (1.5)	147 (5.6)	1,197 (45.3)	33 (1.2)	400 (15.1)	70 (2.7)	591 (22.4)	4,727 (100.0)	98 (2.1)	398 (8.4)	696 (14.7)	154 (3.3)	880 (18.6)	374 (7.9)	938 (19.8)	2,247 (100.0)	90 (4.0)	382 (17.0)	737 (32.8)	166 (7.4)	540 (24.0)	339 (15.1)	649 (28.9)
秋田	2,765 (100.0)	20 (0.7)	93 (3.4)	826 (29.9)	30 (1.1)	591 (21.4)	113 (4.1)	724 (26.2)	3,050 (100.0)	40 (1.3)	115 (3.8)	420 (13.8)	61 (2.0)	443 (14.5)	129 (4.2)	418 (13.7)	3,179 (100.0)	34 (1.1)	146 (4.6)	262 (8.2)	63 (2.0)	454 (14.3)	187 (5.9)	495 (15.6)
山形	2,736 (100.0)	50 (1.8)	165 (6.0)	668 (24.4)	54 (2.0)	446 (16.3)	154 (5.6)	601 (22.0)	3,361 (100.0)	30 (0.9)	97 (2.9)	461 (13.7)	59 (1.8)	417 (12.4)	147 (4.4)	342 (10.2)	3,143 (100.0)	84 (2.7)	487 (15.5)	1,047 (33.3)	216 (6.9)	929 (29.6)	381 (12.1)	1,015 (32.3)
福島	3,890 (100.0)	24 (0.6)	189 (4.9)	2,279 (58.6)	45 (1.2)	400 (10.3)	154 (4.0)	937 (24.1)	3,062 (100.0)	11 (0.4)	83 (2.7)	202 (6.6)	31 (1.0)	268 (8.8)	66 (2.2)	223 (7.3)	2,458 (100.0)	131 (5.3)	400 (16.3)	799 (32.5)	274 (11.1)	736 (29.9)	405 (16.5)	841 (34.2)
茨城	3,802 (100.0)	0 (0.0)	13 (0.3)	646 (17.0)	3 (0.1)	405 (10.7)	32 (0.8)	360 (9.5)	2,140 (100.0)	27 (1.3)	100 (4.7)	457 (21.4)	85 (4.0)	386 (18.0)	120 (5.6)	299 (14.0)	3,446 (100.0)	19 (0.6)	62 (1.8)	521 (15.1)	32 (0.9)	498 (14.5)	73 (2.1)	330 (9.6)
栃木	3,277 (100.0)	6 (1.0)	27 (2.6)	401 (23.5)	9 (0.7)	410 (21.8)	39 (2.9)	432 (16.9)	1,549 (100.0)	13 (0.8)	29 (1.9)	154 (9.9)	23 (1.5)	171 (11.0)	40 (2.6)	114 (7.4)	1,932 (100.0)	13 (0.7)	38 (2.0)	309 (16.0)	9 (0.5)	278 (14.4)	42 (2.2)	263 (13.6)
群馬	1,964 (100.0)	14 (0.7)	74 (3.8)	314 (16.0)	44 (2.2)	353 (18.0)	89 (4.5)	269 (13.7)	1,684 (100.0)	22 (1.3)	124 (7.4)	498 (29.6)	79 (4.7)	365 (21.7)	149 (8.8)	400 (23.8)	2,941 (100.0)	29 (1.0)	173 (5.9)	906 (30.8)	66 (2.2)	822 (27.9)	148 (5.0)	803 (27.3)
埼玉	3,982 (100.0)	18 (0.5)	56 (1.4)	505 (12.7)	40 (1.0)	457 (11.5)	89 (2.2)	371 (9.3)	776 (100.0)	2 (0.3)	11 (1.4)	99 (12.8)	4 (0.5)	88 (11.3)	13 (1.7)	57 (7.3)	4,206 (100.0)	24 (0.6)	215 (5.1)	833 (19.8)	55 (1.3)	1,009 (24.0)	172 (4.1)	1,013 (24.1)
千葉	3,497 (100.0)	2 (0.1)	18 (0.5)	623 (17.8)	14 (0.4)	580 (16.6)	29 (0.8)	432 (12.4)	3,741 (100.0)	25 (0.7)	95 (2.5)	682 (18.2)	55 (1.5)	737 (19.7)	128 (3.4)	579 (15.5)	3,312 (100.0)	62 (1.9)	398 (12.0)	1,041 (31.4)	173 (5.2)	905 (27.3)	404 (12.2)	1,110 (33.5)
東京	143 (100.0)	0 (0.0)	4 (2.8)	29 (20.3)	6 (4.2)	27 (18.9)	6 (4.2)	25 (17.5)	1,447 (100.0)	30 (2.1)	128 (8.8)	453 (31.3)	78 (5.4)	348 (24.0)	137 (9.5)	368 (25.4)	2,656 (100.0)	53 (2.0)	236 (8.9)	622 (23.4)	89 (3.4)	571 (21.5)	172 (6.5)	671 (25.3)
神奈川	1,286 (100.0)	1 (0.1)	2 (0.2)	43 (3.3)	2 (0.2)	103 (8.0)	10 (0.8)	55 (4.3)	1,599 (100.0)	48 (3.0)	164 (10.3)	410 (25.6)	132 (8.3)	371 (23.2)	186 (11.6)	346 (21.6)	6,059 (100.0)	104 (1.7)	533 (8.8)	1,601 (26.4)	105 (1.7)	1,648 (27.2)	418 (6.9)	1,926 (31.8)
新潟	5,088 (100.0)	133 (2.6)	371 (7.3)	1,199 (23.6)	196 (3.9)	936 (18.4)	392 (7.7)	1,145 (22.5)	1,625 (100.0)	29 (1.8)	84 (5.2)	344 (21.2)	52 (3.2)	315 (19.4)	117 (7.2)	399 (24.6)	750 (100.0)	1 (0.1)	9 (1.2)	94 (12.5)	1 (0.1)	85 (11.3)	11 (1.5)	44 (5.9)

資料：農林水産省ホームページ掲載の「地域の農業を見て・知って・活かすDB（2015年）」の集落別データを基に集計。

注：2045年の値は、集落ごとに行ったコーホート分析によって推計された年齢別の集落人口に基づく。なお、「存続危惧集落」には人口がゼロの集落を含む。

(3) 集落単位の予測結果を市町村で見ると (Y市の事例)



- Y市では人口が9人以下の集落は，1集落から5集落に増加するのみ
- 他方，約4分の1の集落が2045年には人口「10~29人」に縮小

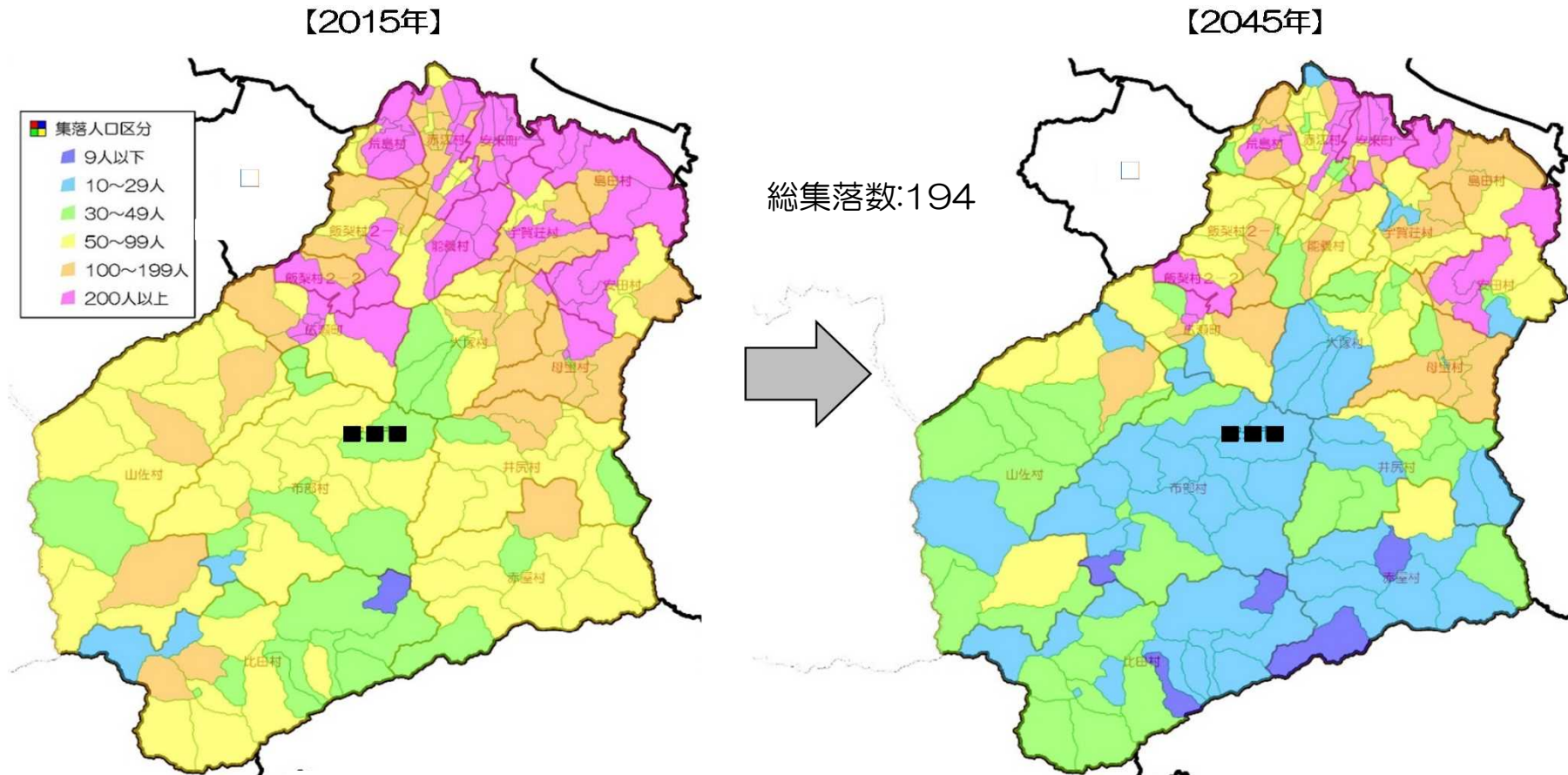


図11 Y市における農業集落の人口規模の予測 (2015年→2045年)

資料: 「地域の農業を見て・知って・活かすDB」 (2015年) から作成。

- Y市では、高齢化率50%以上の集落が2015年の18集落(9%)から2045年には107集落(55%)へと急増(高齢化は深刻に)
- 高齢化率70%以上の集落が市内各地に23集落(12%)出現

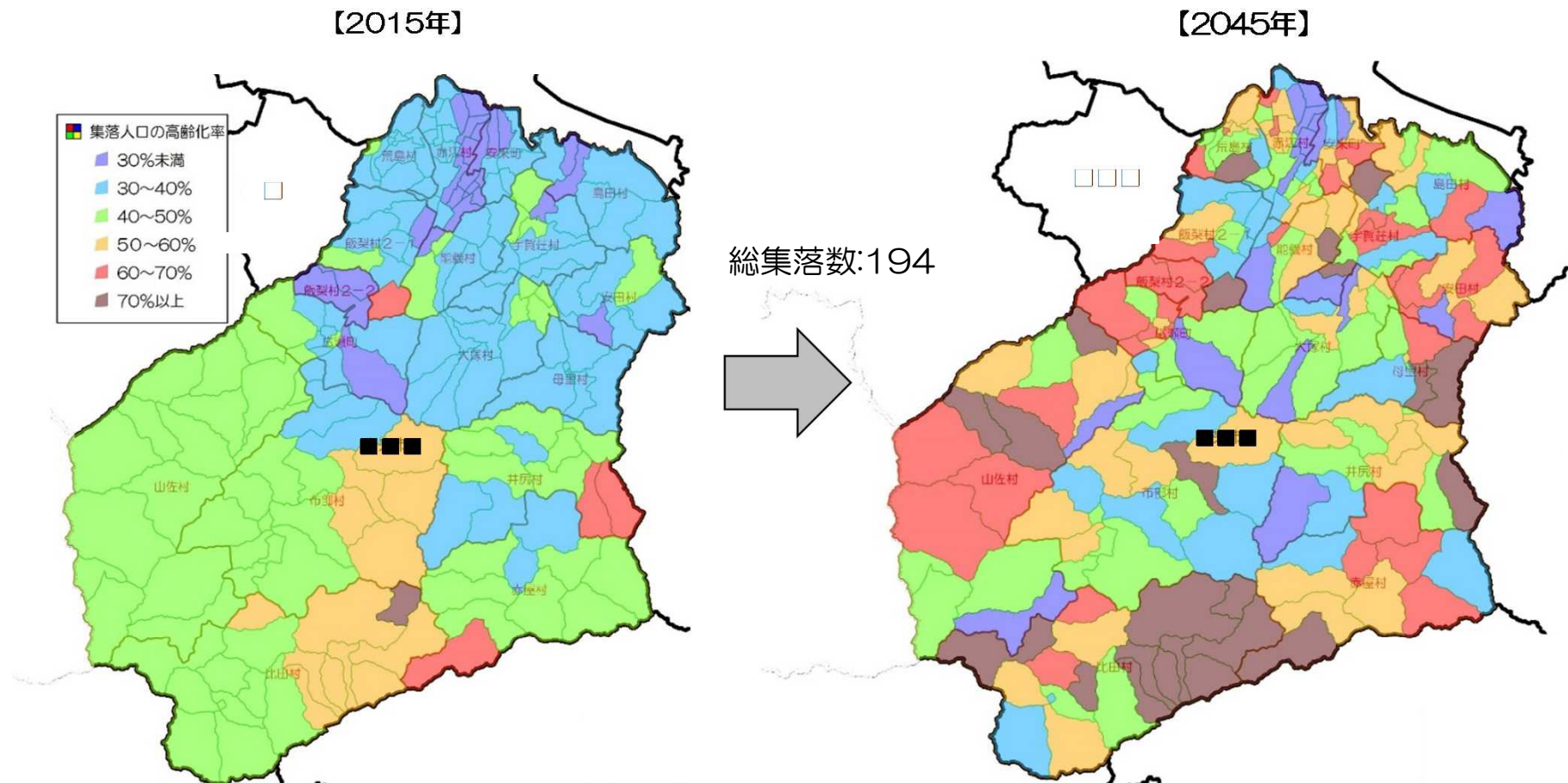


図12 Y市における農業集落の高齢化進展予測(2015年→2045年)

資料：「地域の農業を見て・知って・活かすDB」(2015年)から作成。

- Y市では、子どもがいない集落（14歳以下人口がゼロの集落）が、13集落（7%）から47集落（24%）に増加（主に山間部）

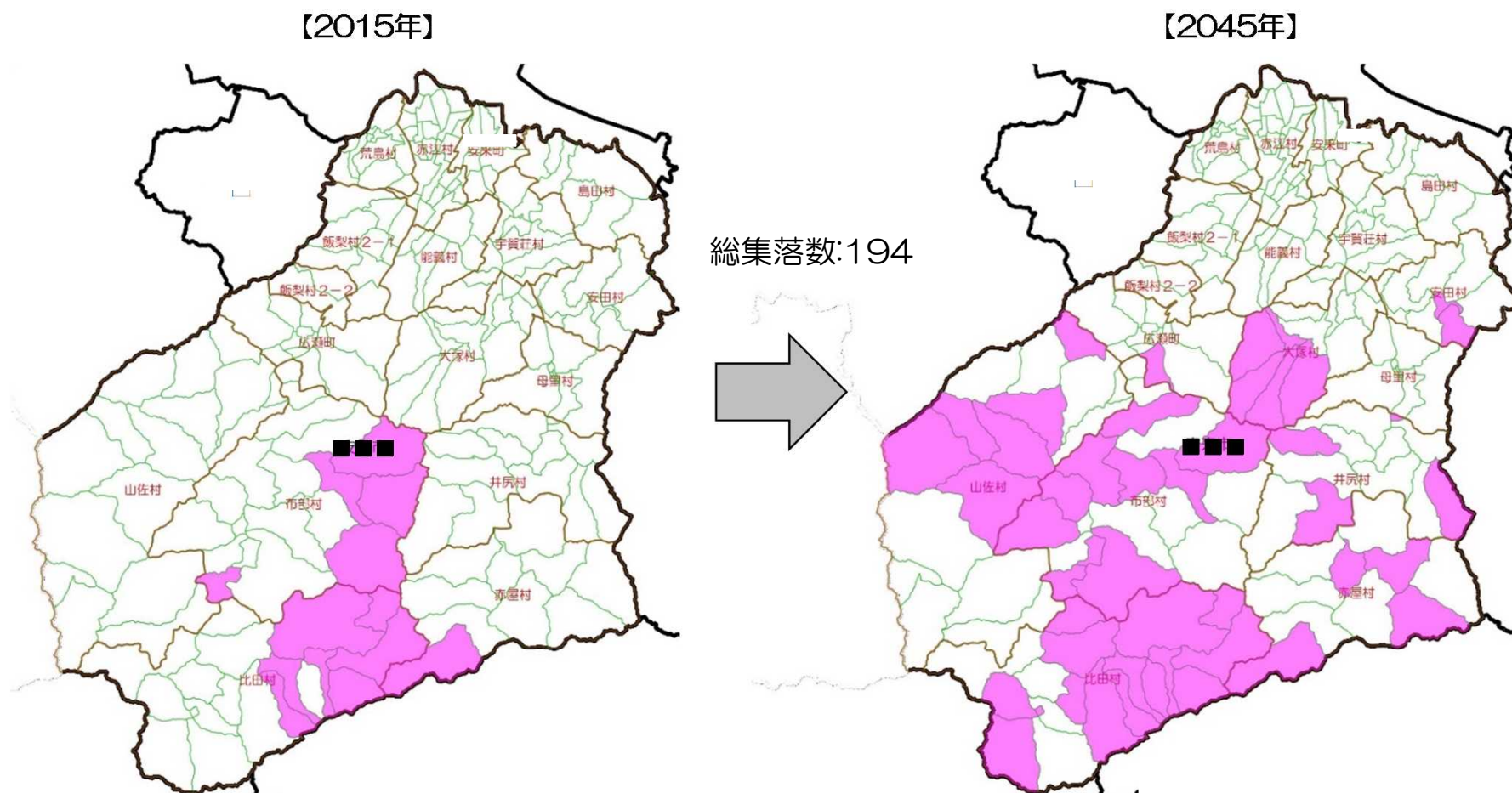


図13 Y市における「子どものいない集落（14歳以下人口がゼロの集落）」の予測（2015年→2045年）

資料：「地域の農業を見て・知って・活かすDB」（2015年）から作成。

3. まとめ



(1) 農業集落の変容に関する分析からは

- ① 農業集落の縮小（構成世帯数の減少）が、とりわけ中山間地域で進んでいる（高齢化も同時に進行）
- ② 中山間地域では、過半の集落でこの5年間に世帯数が減少（新たな空き屋が発生）
- ③ 人口が維持されている集落（この5年間に人口が減少していない集落）の割合は全地域で低下し、平地地域でも17%、山間地域は僅か8%
- ④ 総戸数が5戸（集落人口が10人）を切ると、集落の機能や活動は大きく低下（低下に歯止めがかかっていない）

(2) 農業集落の将来予測からは

- ① 集落の縮小（小規模化）と並行して世帯員の高齢化が今後も加速，「高齢化率50%以上」の集落が2045年には山間農業地域で65%，中間農業地域でも57%を占める
- ② 集落の存続が危惧される，集落人口が9人以下でかつ高齢化率が50%以上の集落（存続危惧集落）が，30年後には1万集落となり今の4倍以上に増加，これら集落の9割は中山間地域に所在
- ③ 有人集落のうち，集落世帯員の3分の2以上が65歳以上となる「超高齢化集落」が4千集落から2万7千集落に，「14歳以下の子供がいない集落」も9千集落から3万集落に増加，総じて西日本の各県で急増
- ④ 2045年に存続が危惧される集落に賦存する耕地面積は約20万ha（うち，中山間地域に約13万ha）